

航空特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

法 規 12問 } 24問 1時間
無線工学 12問 }

法

規

〔1〕 電波法に規定する「無線局」の定義として、正しいものを次のうちから選べ。

1. 無線設備及び無線設備を管理する者の総体をいう。
2. 無線設備及び無線設備の操作又はその監督を行う者の総体をいう。
3. 無線設備及び無線設備の操作を行う者の総体をいう。ただし、受信のみを目的とするものを含まない。
4. 無線設備及び無線従事者の総体をいう。ただし、発射する電波が著しく微弱で総務省令で定めるものを含まない。

〔2〕 次の記述は、電波法施行規則に規定する「航空用DME」の定義について述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「航空用DME」とは、960MHzから1,215MHzまでの周波数の電波を使用し、航空機において、当該航空機から地表の定点までの□を測定するための無線航行業務を行う設備をいう。

1. 飛行距離
2. 飛行時間
3. 地表距離
4. 見通し距離

〔3〕 次に掲げる者のうち、無線従事者の免許が与えられないことがある者はどれか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 刑法に規定する罪を犯し罰金以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又はその執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
2. 電波法の規定に違反し、3箇月以内の期間を定めて無線通信の業務に従事することを停止され、その停止の期間の満了の日から2年を経過しない者
3. 無線従事者の免許を取り消され、取消しの日から2年を経過しない者
4. 日本の国籍を有しない者

〔4〕 無線従事者がその免許を取り消されることがある場合に該当しないものは、次のどれか。

1. 不正な手段により無線従事者の免許を受けたとき。
2. 著しく心身に欠陥があつて無線従事者たるに適しない者に該当するに至ったとき。
3. 電波法若しくは電波法に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したとき。
4. 失そう宣告の届出があつたとき。

〔5〕 総務大臣から臨時に電波の発射の停止の命令を受けた無線局が、その発射する電波の質を総務省令に適合するように措置したときは、どうするか、正しいものを次のうちから選べ。

1. その旨を総務大臣に届け出て、電波の発射を開始する。
2. 直ちにその電波を発射する。
3. その旨を総務大臣に申し出る。
4. 他の無線局の通信に混信を与えないように確かめた後、電波を発射する。

〔6〕 航空機局の免許人は、その住所を変更したときは、どうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 免許状を総務大臣に提出し、訂正を受ける。
2. 1箇月以内に総務大臣にその旨を届け出る。
3. 2箇月以内に総務大臣にその旨を届け出る。
4. 速やかに総務大臣にその旨を申告する。

航空特殊無線技士試験問題

法

規

〔7〕 無線通信の原則として無線局運用規則に規定されているものは、次のどれか。

1. 無線通信は、長時間継続して行ってはならない。
2. 必要のない無線通信は、これを行ってはいけない。
3. 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、通報の送信後、訂正箇所を通知しなければならない。
4. 無線通信における通報の送信は、試験電波を发射した後でなければ行ってはならない。

〔8〕 次の記述は、航空移動業務の無線電話通信における応答事項を掲げたものである。 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

- ① 相手局の呼出符号 1回
② 自局の呼出符号

1. 1回
2. 2回
3. 3回
4. 3回以下

〔9〕 義務航空機局の運用義務時間として無線局運用規則に定められているものは、次のどれか。

1. 航空機の航行中及び航行の準備中常時
2. 航空機の航行の準備中常時
3. 航空機の航行中常時
4. 航空機の出発準備から離陸までの時間中及び着陸準備から着陸までの時間中常時

〔10〕 遭難航空機局（遭難通信を宰領したものを除く。）は、その航空機について救助の必要がなくなったときは、どうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. その航空機を運行する者に通知しなければならない。
2. 航空交通管制の機関にその旨を通知しなければならない。
3. 直ちに責任航空局に通知しなければならない。
4. 遭難通信を宰領した無線局にその旨を通知しなければならない。

〔11〕 無線局は、自局の呼出しが他の既に行われている通信に混信を与えている旨の通知を受けたときは、どうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 直ちにその呼出しを中止する。
2. 空中線電力を低下してその呼出しを続ける。
3. できる限り短い時間にその呼出しを終える。
4. 数秒間その呼出しを中止してから再開する。

〔12〕 無線電話通信において、応答に際して直ちに通報を受信しようとするとき、応答事項の次に送信する略語は、次のどれか。

1. OK
2. 了解
3. どうぞ
4. 送信してください